

素敵な古民家再生とその暮らし

本日は立春。暦の上では「春」ですが、まだまだ寒い日が続いています。

この冬は、インフルエンザが流行り、受験生がいらっしゃるご家庭は大変な時期かと存じます。私が受験生だった頃、暖房器具といえば炬燵。夜遅くまで炬燵で勉強していた頃を思い出します。

さて、今月のトピックスは趣向を変えて、ライトな話題を提供致します。

先日、大阪府八尾市にて、「古民家再生の取り組みを通じて空き家の利活用について考える」講演会に行つて参りました。講演会では4名の講師が登壇され、そのなかの町田様は住人、萩原様はオーナーの立場で古民家を再生された具体的事例についてご紹介致します。

住人の立場で講演の町田様は、親戚が所有の幽霊屋敷同然の古民家を借り受け、専門家に頼らずご自身为中心となってネットで検索しながら、柱と床の一部しか残らない状態に解体後、基礎、土台、土壁を作り、屋根をふき、床板を貼り、畳を敷き、DIYで再生されました。

きっかけは、安全なものを食べたいという想いから、雑草がボウボウに茂る耕作放棄地を3年かけて試行錯誤の末に収穫できる畑にし、自給自足の生活を可能にされました。その矢先に古民家借り受けの話があり、サラリーマン生活を辞めて古民家を住める状態にしようとして掛かられました。

現在は「循環型の生活」の実践を目指し、地域のNPOと協力して山で集めた薪を利用した薪ストーブと薪で焚くお風呂、井戸水を利用、コンポストトイレを導入されました。今後は薪キッチン、太陽光パネル設置等を予定されています。

その暮らしぶりは、『タカヤスタイル』として、ブログで情報発信されています。

●タカヤスタイル ブログ <http://takayasu-style.com/>

オーナーの立場で講演の萩原様は、江戸時代に河内木綿の山根木組（やまんねきぐみ）の木綿問屋・織元であった茶屋吉兵衛氏より数えて19代目の当主です。敷地内には築250年の屋敷と蔵があり、屋敷の一部は、明治9年から終戦後まで恩智（おんち）郵便局として活躍していました。

再生前の屋敷の大部分は先祖代々の荷物で埋まり、蔵は開かずの間だった為に手に余ってしまい、一時は解体を検討されました。その中、「解体したら勿体ない」「建物を活かしたい」とサポートする方々が現れ、皆様の知恵や力を借りてプロジェクトチームを組み、先祖代々の荷物の整理から始め、文化的価値のあるものは市の関係機関に寄贈したり修理に出して再生し、建物本体は専門家に依頼して出来る所から補修をし、「ほんまもん」をコンセプトにした『茶吉庵（ちゃきちあん）』が再生しました。

現在では、ギャラリー、音楽会、落語会、古民家ヨガ等のイベントに、ゆるくカフェ、まちライブラリー等を併設し、蔵の一部をアーティストに工房として貸し出す等、地域交流の場、情報文化発信の場となっています。

今も建物の一部、建具、蔵、備品の改修・修繕を進めておられ、更に進化する『茶吉庵』が楽しみです。

●茶吉庵ホームページ <https://chakichian.co.jp>

お二人の事例を伺い、一旦、住まなくなった家、つまり、維持管理されていない家は、しっかり建てた建物でも直ぐにガタが来る事。家に手を入れ続けると愛着がわき、住み応えを感じると共に、まちの賑わいを取り戻し、地域社会に貢献されている事です。

皆様のお住まいも、多くの方に愛され、次の世代に大切に引き継がれる事を願っています。

以上

- ※ 維持保全計画、点検の実施についてご質問、ご不明の点は、事務局までお問合せください。
- ※ お住まいのご質問や相談は電話かメールでお寄せください。
- ※ センターのブログも是非ご覧下さい。 <http://www.holsc.or.jp/information/blog/>
- ※ 空き家や留守宅について管理や活用のご相談お待ち申し上げます。
- ※ 「登録住宅いえるて」のご説明は、ホームページをご覧ください。 <http://www.holsc.or.jp>
- ※ 「登録住宅いえるて」WEBの「住宅所有者ID」をお忘れの方や不明の方、「登録住宅いえるて」についてのご質問や資料をご希望の方、「担当の点検登録店」がご不明の方は、 info@holsc.or.jp へメールをお願い致します。
- ※ 自治会や子供会等へ住まいの出前講座をお受けしています。イベント企画にご利用ください。
- ※ このメールマガジンをご希望、又は不要の場合は、 info@holsc.or.jp へご連絡をお願い致します。